

水圏統合科学プログラム

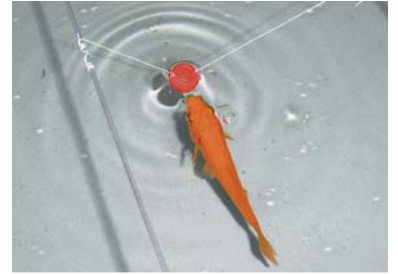
～日本と世界の水産を支える人材教育を目指して～



附属練習船豊潮丸



サンゴ礁の生き物(モンハナシヤコ)



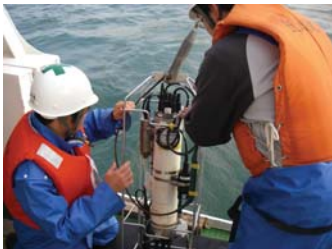
キンギョの学習実験

海洋や河川などの水域には有用な水生生物が多く生息し、人類に大きな恵みをもたらしています。その恵みを持続的に活用していくためには、水生生物及びそれらを取りまく環境について広く理解することが不可欠です。

同時に、漁業者や研究者の生の声を聞き、現実的な問題に即して学問を進める姿勢も重要です。本プログラムでは、講義・実験・フィールドワークを通じて、①水圏の環境や生態系の物質循環に関する基礎的知識を学び、②水産資源の増養殖や環境保全に必要な基礎的知識と研究方法を体系的に修得し、③水圏における生物資源の生産や研究現場における問題の解決について、国際的視野から思考する能力を修得し、多様化する社会のニーズに対応できる人材育成を目指します。

Highlights

水圏生態系の持続可能な利用を目指して



近年の海水温上昇や貧栄養化などの海洋環境の変化は、水産資源の漁獲高減少や品質の低下を招き、大きな問題となっています。本プログラムでは、地域の人々の生の声を聞きながら、地方公共団体などと共同で漁業生産や海洋生物に関する調査・研究に取り組んでいます。



クロダイに装着した発信器



潜水トレーニング



研究フィールドの水中景観



海藻標本